

# リレー読書日記



## 熊谷達也

Kunagai Tatsuya

### 「人類」はどこから来たのか 「意識」はどこにあるのか 根源的問いに読書で迫る幸福

先日、久しぶりに出版社が主催する文学賞のパティーに顔を出した。ところが、顔見知りの編集者や同業者の反応がどことなく妙なのだ。何かに困惑しているような、そんな空気が伝わって来る。しばらくして理由に思い当たった。一昨年の秋からロードバイク（自転車）に乗り始めたおかげで、体重が十五キロ近く減っている。見た目が相当変化しているらしい。しかもこの年齢である。何か悪い病気でもしたんだらうか——会う人の脳裏には、そんな疑念がよぎっていたようだ。

私の場合、運動で体重を減らしたわけだが、炭水化物と砂糖類を食べないだけという、いわゆる糖質制限ダイエットを詳しく紹介しているのが「炭水化物が人類を減ぼす 糖質制限からみた生命の科学」である。私の身近にも糖質制限でダイエットに成功した友人がいるので、方法さえ間違えなければ確かに効果はあるようだ。だが、本書の真骨頂は、糖質制限ダイエットという身近な関心事から出発し、生命科学をベースとしつつ、進化論や人類史にまで広がる様々な考察が展開され

### 今回の3冊

「炭水化物が人類を減ぼす 糖質制限からみた生命の科学」  
夏井睦著  
光文社新書 / 880円

「ネアンデルタール人は私たちと交配した」  
スヴァンテ・ペーボ著  
野中香方子訳  
文藝春秋 / 1750円

### 心打つ研究者のひたむきさ

とところで、本書の面白さは、様々な仮説が大胆に展開されているところにあるのだが、そうした仮説は、一つ一つ検証されることによって、私たち人類の共有財産として

蓄積されていく。その困難な作業が、科学者たちの地道な努力によって支えられていることを再認識させられたのが「ネアンデルタール人は私たちと交配した」だ。本書はスウェーデン生まれの生物学者、スヴァンテ・ペーボの自伝であるのだが、現代人がネアンデルタール人のDNAを受け継いでいるという、研究者としての著者が、長年夢見てきた成果に辿り着くまでの苦闘が描かれている。私たち読者は、著者の半生を追うことで、DNAのゲノム解析という最先端の科学の歴史を垣間見ることができるようだ。そして書名にあるように、私たち現代人がネアンデルタール人と交配した証拠が発見されただけでも

この欄は中島文博、堀川恵子、熊谷達也、生島淳の4氏によるリレー連載です

驚きなのだが、それに留まらない。アフリカで発祥した現生人類が世界中に拡散する際、ネアンデルタール人の遺伝子（免疫システムに寄与する部分）を受け継いだことが、私たち現代人が生き延びる役に立ったという、別の研究者の発見も本書で紹介されていて、これも刺激的な話だった。

さらに違う意味で興味深かったのは、私たち一般人も知っている「ネイチャー」誌や「サイエンス」誌に掲載される論文には、著者の研究グループが当然満たすべきだとする科学的基準を満たしていないものが掲載されているため、違う科学雑誌に自身の論文（一九九六年にネアンデルタール人のミトコンドリアDNAの復元に初めて成功した際の論文）を送ったというエピソードである。科学に携わる者がいかにあるべきか、その厳格さを教えられた気がするの



「意識はいつ生まれるのか 脳に挑む統合情報理論」  
ジュリオ・トノーニ / マルチェロ・マズツィーニ 著  
花本知子訳  
亜紀書房 / 2200円

この二冊を抱えて書店のレジに向かう途中、ふと目に留まって一緒に購入したのが「意識はいつ生まれるのか 脳に挑む統合情報理論」だったのだが、これがなんと、私にとって大当たりの本であった。ずいぶん前、リチャード・ドーキンスの「利己的な遺伝子」を読んで、人生観が変わる

ほどの衝撃と感銘を受けた私だが、それに匹敵するような読書体験をすることになった。意識とはそもそも何かという問いかけは、今こうして意識を持って生きている私たちにとって、最大の難問であるかもしれない。精神的なもの、物質的なものあいだに

それが明らかにあったのであるから革命的な出来事である。しかも単なる仮説ではない。実験によって検証された理論なのだ。たとえば、植物状態や昏睡状態に陥っている患者に意識があるのかないのか、その判定が可能になったのだから、凄いとしか言いようがない。統合情報理論などと聞くと、何やら難しそう、と腰が引ける読者がいるかもしれないが、その点についてはまったく心配しなくていい。私がかれまでに読んできたこの手の本では、ベストスリーに入るわかりやすさと面白さであるのは間違いない。

くまがい たつや / 58年、宮城県生まれ。東京電機大学理工学部卒業。97年『ウエンカムイの爪』で小説すばる新人賞を受賞。00年『漂泊の牙』で新田次郎文学賞、04年『邂逅の森』で山本周五郎賞、直木賞を受賞した。『リアスの子』『微睡みの海』など著書多数

## THINK NOW ハンセン病

治療法が確立された今も、私たちの社会で差別は続いています。ハンセン病の本当の問題。それは、「知らない」ということ。ハンセン病は、私の、あなたの、みんなの問題です。

ハンセン病を  
考えることは、  
人間を考えること。

2016.1.31は  
世界ハンセン病の日

